



こんにちは 府會議員

# さこ祐仁 活動報告

2008年10月19日発行 No.67

千本出水下る十四軒町392

さこ祐仁事務所

075-813-2117



写真(上)5日・上京区事務所びらきで訴える、こくた衆議院議員、くらた市議、私。

**アメリカ、財界いなり「2つの政治悪」に正面から立ち向かう日本共産党が伸びてこそ、政治は変えられます。来たる総選挙で、比例での日本共産党の躍進・1区こくた勝利で、後期高齢者医療制度を廃止させましょう!**

地域を訪問する中で、日本共産党への期待が次々寄せられます。

11日と13日は後期高齢者医療制度廃止署名を持って、地域後援会員と聚楽学区、京極学区を訪問しました。

「後期というのが気に入らない。廃止してほしい」「これはだめですよ」とすぐに署名に応じてくれる方が多いのが特徴です。京都市議会での「後期医療制度廃止の意見書」が可決し、「この制度の原型ができたときから反対を貫いてきたのが日本共産党で、先の参議院での廃止法案可決のまとめ役が国会対策委員長のこくた恵二です。今度の解散総選挙で、1区でこくた衆議院議員勝利と日本共産党を伸ばすことが差別医療制度廃止の大きな力になります」と訴えると、「そうですね。今度はがんばってもらわんと」と返事が次々と返ってきます。その中で、後援会員や「赤旗」読者も増えました。12日は上京区16箇所で行民運動会が開催されました。こくた衆議院議員、くらた市議と私で、各会場を訪問しました。各学区とも競技内容に工夫を凝らして参加者に楽しんでもらい、そして真剣に競技してもらおうなど特徴が表れて

## さこ駆け歩き

10月5日

中立学区の運動会の開会式に参加してその後すぐに、北区ライトハウスで開かれた「第42回白杖安全デー」に参加しました。

230名の方が参加され、視覚障害者の福祉増進の取り組みが行われました。

私はアイマスクをして穂区訓練をしましたが、視界が閉ざされるということは、かなりの恐怖感を与られます。パートナーの方が付き添って、「右へまがる」「次は左です」と声をかけてもらっても、平衡感覚がなくなり一瞬フラツとして「あぶない!」と思いました。階段の前にある点字ブロックはパートナーに「階段ですよ。点字ブロックは階段の20センチぐらい前にありますから」と声をかけてもらっても、靴越しになかなかブロックの感覚が伝わりにくく「やばい」と思いました。

この日は雨で、室内での歩行訓練でしたが、道路上だったら道でこぼこなどに足をとられるのではないかなと考えさせられる体験となりました。視覚障害者や他の障害者のための施策などを充実させ社会生活をしっかりとすごせるように、議員としての役割を再認識させられました。

いました。室町学区のわたしの町内は、惜しくも優勝はできませんでしたが、800メートル走、玉送りリレーなど決勝に出場しました。

10月6・7日は9月府議会「商工労働観・光常任委員会」でした。2つのことを質問・要望しました。

「職業能力開発総合センター(仮称)の開設(中間まとめ)について」が出されましたが、概要は「総合的な職業能力開発を推進するため、高等技術専門校4校の再編整備を実施」とあります。これについて福知山校の建築、家具工芸、土木施行科が廃止・統合されると聞いた家具工芸科の修了生有志の方が京都府知事に、8月に家具工芸科の存続を願い「嘆願書」を提出されていることが委員会当日にわかり急遽質問しました。

理事者は、「卒業しても京都府内で働く人が少なく、地域の産業活性化のニーズに結びつかない」と答弁。私は、ものづくりを進めていく「専門学校では日本古来の基本的な手作業の技術と効率のよい機械作業の訓練を行っており、廃止でなく存続をすべきだ」と要望しました。

また、これまで仕事につけない人に仕事の技術を学んでもらうために、無料だった受講料を徴収するというのも発表され、本来の趣旨からも逸脱しているのではないかと指摘もありました。

道具類の確保について、伝統工芸品の製造に不可欠な道具類が、和装伝統産業の衰退で調達が困難になっている問題も先議員を含め私も追求してきました。このたび、「伝統産業道具類等確保対策協議会」が開催され、気象道具類の供給動向調査、道具類の在庫管理が検討されました。府の予算も200万円獲得できました。府は西陣織の手機の竹箴の技術継承のために職人を確保しました。しかし、職人は「竹箴づくりでは生活が成り立たない」のが実態です。道具政策の受注機会を増やすこと、生活が成り立つように育成資金を府独自で作ることを求めましたが、「和装の需要が減っている」と逃げ腰の答弁でした。

和装産業が基幹産業というならもともと本腰を入れるように、多くの業界の人たちとも会合をもち、対策を講じるよう要望しました。